

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
 神奈川 碩心会 発行

現在会員数  
 167名  
 11月地区  
 261名  
 地区計  
 46名  
 (合計) (474名)

2020年11月号 (220号)  
 発行 者 萃 岳  
 根 岸 集 者 岳  
 編 村 集 者 岳  
 中 村 集 者 岳

## 詩歌を将来の道標に

真澄支部 櫻 玲山

全国大会に参加して思ったこと

知人の新築祝の席で「富士山」の朗々たる吟に魅せられて、矢も楯もたまず、先生に教えを請うて早や五年。家事の雑事におわれ、ただの趣味だからと、のんびりお稽古に出向くのみで、いっこうに上達せず、先生に本当に申し訳なく思っております。

この度の全国大会も、正直なところ、丁度紅葉の見頃で美しかりう黒部ダム、立山の連峰を仰ぎたく、あつかましくも、先輩の皆様のお仲間に入れて頂きました。

道路がすいていたので、九時過ぎには会場に着き、まずは驚いてしまいました。三千人以上収容できるホールは一杯で、あとから見える方のお席がないように心配な位でした。又地元の方達は、皆さん礼服で接待して下さり、十時全員着席、根岸先生の先導で「朗詠」を吟じましたが、大合吟の重々しく、格調高いひびきに、何かグーンと胸をつきあげる感動を覚え、あらためて祖宗範木村岳風先生の偉大さを沁々と感じました。この隆盛を目のあたりにして、現在その中の一員として、多勢の大合吟の中で一緒に吟じている自分の誇りを、身を以

て体験いたしました。

又合吟コンクールでは、三十組の中から神奈川県本部が二組も入賞され、しかも全国一位に選ばれて、神奈川県本部ここにありと、大きな声で叫びたい程でした。

すばらしい大会に参加させて頂き、自分の将来への道標を、詩歌を友として、豊かな感情の陶冶であってみれば、これも楽しく老いて行くことが出来ると思います。

颯風一過の黒部の、想像以上の険しさと美しさは、筆舌につくせぬ景観でございました。こんなに充実した旅は始めてで、この大会に参加出来ました事を、心から感謝致します。大会を運営なさいました先生方、又旅行の計画にお骨折り下さった諸先生方、本当に有難うございました。心から御礼申し上げます。

### 第46回 県本部吟道大会終る

10月21日、海老名市文化会館での右大会に、碩心会から左記の参加がありました。

独吟 春夜洛城に笛を聞く 松井正風

俳句・二題 渡辺誠岳

合吟 峨眉山月の歌 佐藤湧岳

合吟 神州 松野宝岳他

合吟 太平洋 森田暁岳他

独吟 胡隠君を尋ぬ 森田嶺岳

合 吟 九月十三夜

鈴木孝岳他

合 吟 コンク・爾靈山…

村井知子 草柳利子  
安田好子 中山俊江  
森久美子 米山茂子  
中村豊子 小林秀子  
金子憲子 高見陽子

合 吟 神州

竹石憲岳他

立体吟・山中の月…

吟 村田滯岳 磯村朋岳  
綾部秋岳 西村昌岳  
舞 高橋之山

役員 九月十三夜

千葉劔岳  
加藤岳相

吟 詠 江村晚眺

偶感

根岸岳萃

右合吟コンクールチームが参加12組中、  
(努力賞)に入賞しました。

### 第24回葉山町文化祭

#### 詩吟・詩舞の会終る

10月21日、葉山町福祉文化会館に於て右会が行われました。今年は大大会、葉山ふるさとまつりと重なり、なりゆきを心配していましたが、参加人数が右の理由で例年に比べやゝ少なかったものの、熱心な方々により、無事に終了しました。詩舞が彩を添えてよかったです事、又役員の皆さんのひたかたならぬお骨折等が今年の文化祭の話題となりました。

### 第40回逗子市文化祭

#### 詩吟・詩舞発表会終る

11月3日、逗子市図書館ホールに於て右会が行われました。好天に恵まれ、いつもながら各流派の方達が心を合せて会を盛り上げる姿はすばらしい。吟に舞にと会は大いに盛りあげられました。隣接の体育館でも、書道展、その他ありで、大変賑やかで、まさに秋の文化祭まっさかりの感がいたしました。

### 第98回全国大会参加

#### 県本部吟行会

(第一日)全国大会に参加して

堀内支部・D 徳本 華山

前日迄の雨も上り、お天気もまずまずで、傾心会の皆様を乗せて、バスは逗子市役所前を七時出発、一路大会会場に向いました。逗葉を通り横々道路に入りましたが、日曜日でしたので道路も空いていて、車はスムーズに走りまわりました。まわりの山々はまだ紅葉はしていませんでしたが、時折、木々の間からウルシ、ナナカマドの紅葉が見えて、秋を感じる景色でした。時々ガイドさんの説明もある中、東名高速道に入り、遠方に

箱根連山を見ながら御殿場に着き、ここでは御殿場の地名や、由来など聞いて勉強になりました。

山中湖畔を通り抜け、九時頃会場に到着、記念に写真など撮って、十時式典が始まりました。会場は全国からの人々が集り、活気に満ち溢れていました。国歌斉唱、竹末理事長の御製謹詠にはじまり、皆様の吟を聞かせていただき、吟の重みを感じました。神奈川県本部からは男性二組、女性一組の合吟と独吟一題、連吟一題の出吟があり、見事に吟じられ、会場の拍手を浴びました。合吟コンクールでは参加30組の中、第一位にわが県本部の横南吟詠会が入賞し、又四位に同じく湘南吟詠会が努力賞に入り、県本部の意気盛んをみせてくれました。最後に全員で万才三唱して式も終り、記念すべき会場をあとにしました。

車でほんの少し行くと今宵の宿、富士レイクホテルに到着。湖畔の見える素晴らしい宿でひと風呂浴び大広間に集合、新田県本部長、根岸副本部長先生のお祝いとお褒めの言葉をいただき、全員で乾盃、次々と各会毎に余興も演ぜられて、楽しいひとときでした。時間はまたたく間に過ぎておひらきとなり、今日一日を感謝し、又明日の観光を楽しみに眠りにつきました。

(第二日) 雨の安曇野あたり

堀内支部・A 矢嶋 悦岳

朝起きて湖面に雨打つのをみる。やはり雨か。台風の接近では仕方がない。雨のため、近畿ツーリストの長谷川さんのお骨折により、二日目と三日目の行程を変更していただけのようになり、8時30分、雨の中、湖畔の宿を出発。

富士吉田より高速道を通り、大月、笹子トンネルを抜けるとそこは勝沼。一面の葡萄畑に感歎。笛吹川を渡り甲府に入ると、思いのほか雨も小降りとなり、あたりの景観に一服の風情を感じた。

諏訪湖のサービスイヤで休憩、岡谷より塩尻に入り、右手に雨の八ッ岳を見る。昔旅人が塩尻峠をどんな思いで越えたであろうかと、今日に生きる倅せを思う。11時30分松本で昼食をとり、早々に車の人となる。黄金波打つ田、刈り取られた稲束の垣、その中に点々とある茸ぶきの家や白壁の蔵のある雨の安曇野の風景にみとれつつ、渋滞もなく大町に入り、塩の道博物館を見学。大町村庄屋平林家の往年の生活を偲ぶ。次の酒の博物館では試飲をし、あれこれと皆さん買い求める。

台風が今夜小田原沖を通るといふ情報も

入り、この頃から雨足もはげしくなり、りんごの里も早々と引きあげ、ホテル山田屋に入ったのが3時40分で定刻より大分早かった。

5時頃には雨も上り、流れる雲間から青空も顔を見せ、赤松の赤い膚と緑の葉のコントラスト、ナナカマドの見事な紅を窓から眺め、しばし見とれる。

夕食のあと懇親会に入り、頑心会からは高橋俊山さんのはぎれのよい新舞踊、天野屋利兵衛と葉山地区有志による「葉山音頭」を披露、宴会を盛りあげた。御苦労様でした。そして明日の好天を祈り、黒部の峡谷、立山連峰を夢み、眠りにつきました。

(第三日) 大自然の景観と  
美事な紅葉

逗子A支部 松井 正風

朝6時に目が覚めた。いや起こされた。昨夜は同室の悪友と共に遅くまで遊びすぎ、今朝は起きるのがとても辛かった。しかし、今日は私がおもっても楽しみにしていた立山黒部ダム見物である。天気があまり良くなく一寸心配だ。人跡未踏と言われた神秘的な立山黒部は、私にとって青春時代を思い出させる、とても懐かしい所だ。それは三十年前、私はまだ登山に夢中になっていた頃立山連峰・剣岳・樺平・黒部峡谷・宇奈月

へと縦走した時、黒部ダム工用のトロッキに便乗させて貰ったり、工事の人達と食事を一緒にしたり、とても親切にしていただいた思い出の地である。

ホテルを出発のバスに乗りこんでみて、私の予想に反し、天気心配など無用であった。我々以外の頑心会の皆さんの元気の良いこと。多分昨夜はグッスリとおやすみになられたのだろう。黒部に近づくにつれ雲が切れ、晴間が見えはじめた。思わずホッと溜息の出るすがすがしさ、その大自然の景色の素晴らしさ。寒かった昨夜のうちに降った初雪が頂上に白く残り、その下が見事な紅葉、今回参加出来なかった人達にも見せてあげたいと思った。黒部湖よりケープルカー、ロープウェイと乗りつぎ大観峰へ。上に登るごとにその素晴らしさが増す。下界ではとても見ることの出来ない景色であった。そして限りない大自然に心を残し、いっ気に信濃大町まで下った。

帰りのバスの中では皆さん疲れも忘れてカラオケなどで大はしゃぎ。ウトウトと居眠りをしてるうちに20時30分逗子に到着。全員が事故もなく無事に家路につけたこと本当に良かったと思えました。毎度のことながら、吟行会の役員の皆さん、お疲れ様、ありがとうございました。

練吟  
メモ  
五言・七言

○この練吟メモはすでに七年目に入っています。この間の取材は、教場で指導される漢詩の背景や解釈などについては触れないで、もっぱら教場外での会員皆様のお声を参考に続けて参りました。いくら平易に心掛けても、会員間の連絡や親睦を主目的とする会誌ですので、記事の内容はかなり制約されます。今回も少々お固い題材で恐縮ですが目を通していただきましょ。

○以前の月報の「ぎんなん」欄で指摘していましたが、古い方々が今なお「五言」「七言」の読みを間違えて使っているところを見ると、新しい会員のかなりの方が「五言」「七言」を「ゴゲン」「シチゲン」「ナナゲン」などと呼称しているのではなにかと思われまます。漢詩を何年も吟じている人が、人前で「このナナゲン絶句は……」などと話しているのを耳にすると、まったく驚きというほかはありません。

○結論から申しますと、これは漢詩の場合「五言」「七言」はむかしから「ゴゴン」「シチゴン」と読むのが慣例となっておりまます。ゴンとは「字」ということで、五言絶句は一句が五字でできて四句構成の

絶句。七言絶句は同様に一句が七字でできている絶句ということだす。したがって、このほか一句の字数により、五言律詩・七言律詩、五言排律・七言排律、五言古詩・七言古詩などと、漢詩の形式に応じて呼び名(つまり種類)があるわけだす。

○熟語の読み方はむかしから定められています。むずかしくお話しすると読んでいただけないようだすので、ごく簡単な例で申し上げますと

言語道断(もつてのほかの意)

右の熟語をあなたはどう読みまますか。もちろん「ゴゴン・ゴドウダン」であつて、間違つても「ゲン・ゴドウダン」とは読まないはずだす。このように、五言・七言の場合も、むかしから「ゴゴン」「シチゴン」と読むのが慣例になつているのでだす。ですから、人前で「ゴゲン」などと言つたりすると顔を見られてしまつので気を付けましよう。

○以上のように、熟語の読みは定まっていますが、中には二通り、三通りの読みも通じているものもあるのでご注意。

一言居士 (どんなことでも一言口を出さないといふ)

これは「イチゲンコジ」でも「イチゴンコジ」でもいいわけだすが、最近ではイチゲンコジの方が一般に使われていようだす。

(住所変更)

80 井上尚岳 逗子市桜山三十四号に

(桜山A) (電) 〇四六八一七三一六九〇七

(入会)

592 大野恵山(再) 逗子市久木八一六一二

(真澄) (電) 〇四六八一七三一九二二六

593 木田栄次郎 逗子市沼間三十四一七

(山の根) (電) 〇四六八一七三三三四六九

594 鈴木良雄 逗子市沼間三一四一五

(山の根) (電) 〇四六八一七三三三六五

595 関 恒雄 逗子市沼間三一五一四二

(山の根) (電) 〇四六八一七三三九一三五

596 中川元八 逗子市沼間三一四一三

(山の根) (電) 〇四六八一七一〇七七〇

597 人見久雄 逗子市沼間三一四一三

(山の根) (電) 〇四六八一七三三三六四

(退会)

377 益子春山(諏訪) 386 三木美山(一色A)

491 石渡芳子(諏訪) 502 梅田可奈絵(真澄)

秋の夜の澄んだ大気の中にあふれる月の光のなんと美しいこと……。それにしても月の呼び名はずい分多いものとあらためて思ひ。新月、満月、三日月、弓張月、十六夜月、立待月、夜明けの空に残る有明月、夕月、春の宵のおぼろ月……等々。今夜は満月、晴れるとよいが……。